

# 一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

## 令和2年度第3回 理事会 議事録

令和2年5月21日(木) 18:30~20:00

静岡県浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田 剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、田中信弘、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田宏、渡邊雅彦

【出席した監事】小澤浩司 小西宏昭

【出席したオブザーバー】遠藤健司(社会保険等システム委員会委員長)  
大和雄(第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局長)

【議事の経過の要領及びその結果】理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。  
会議は web 会議で行われた。

### 1. 理事長挨拶

松山理事長が、新理事長としての挨拶と今後の学会の方針を示した。

### 2. 名簿確認と理事自己紹介

新役員会の名簿の確認と、各役員からの自己紹介がなされた。

## 審議・決議事項

### 1. 今後の理事会開催日程・様式と議事内容

松山理事長が、今後の理事会の開催日程について、毎月・短時間・(しばらくの間は)web 会議システムを使って開催することを提案し、一同検討の結果、承認した。近日次回理事会の日程調整に入ることになった。

また松山理事長が、理事会では全理事参加型とするために委員会での活動を共有したいと提案し、今後、毎回全委員会からの活動報告を行うことになった。

### 2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査(3-4月分)

西田理事が、3月~4月の入退会について委員会では全員承認であった旨報告し、決議を求めた。一同検討の結果承認した。

### 3. 国際委員会より：学会として招待されている今年度の国際学会への対応について

伊東理事が、SPINE20 への学会としての参加について提起した。この団体についての説明ならびに、昨年の G20 に合わせて開催された経緯や、現在は大阪市大の玉井先生が事務局をし、松山理事長・伊東理事・中村雅也委員長が数回 web 会議に参加していることなどを報告した。

松山理事長が、より情報を得てから判断したいとして来週の会議参加後の報告を得てから、再度理事会にての審議を指示し、伊東理事が承知した。

また、全世界的なコロナ禍の影響により、今年開催される予定の国際学会へ JSSR として参加するかを委員会内で検討したと説明した。8 月の KSSS については「条件付きで参加（web 開催、渡航制限解除の場合）」との国際委員会の回答で問題ないとして、伊東理事から KSSS へ回答することになった。

## **審議・報告事項**

### **1. 国際委員会より：委員会報告**

伊東理事が、5月の委員会議事録を資料として委員会活動を報告した。

上記審議・決議事項で検討したことのほかに、今年度のトラベリングフェロー（ATF）については、次年度への繰り越しも視野に入れつつ、状況が流動的であるため適宜判断すると述べた。アジアの受け入れ国の状況も重要であり、ロックダウンの状態が長引くことが予想される国もあるため、伊東理事が、ATF 派遣先の各施設の担当医師たちにも状況を確認することになった。また、国際委員会から ATF に選出された会員へ、8月ごろには状況を報告することになった。

### **2. 社会保険等システム検討委員会より：脊髄モニタリング管理料の取り扱いについて 他** 社会保険等システム検討委員会委員長である遠藤健司オブザーバーが以下のように報告した。

社保委員会からの緊急要望は3項目あり

椎間板内酵素注入療法 K134-4 の通知における矛盾点について

厚生労働省（以下厚労省）から発信した3月の2つの通知に矛盾があり、4月以降ヘルニコアによる治療を予定している学会認定施設の有床診療所において混乱が生じている。

学会の責任においてヘルニコアの使用を認めた有床診療所の保険算定の許可を要望する。

椎間板内酵素注入療法 K134-4 の学会認定施設についての疑義解釈通知の不合理

ヘルニコアを使用できる施設について、3月末に厚労省から出された疑義解釈通知において「日本脊椎脊髄病学会または日本脊椎外科学会が認定した施設」とすべきところを、「日本脊椎脊髄病学会及び日本脊椎外科学会が認定した施設」とされていたため、地方厚生局により施設認定を保留された事例が発生。また、通知2(3)に「整形外科又は脳神経外科について10年以上の経験を有する常勤医師が1名以上配置」と、今までになかった文言が加わっており、この要件が加わることで手術を行えなくなる施設も出ている。

学会からの「認定証」の写しをもって保険請求を行うことへの理解を得たい。また「10年以上の経験を有する常勤医師」の追記についても、削除を要望する。

脊髄誘発電位測定当加算1 K930 の矛盾点

3月下旬に厚労省より通知のあった出来高となる手術機器加算に加えられた「K930 脊髄誘発電位測定等加算1 脳、脊椎、脊髄、大動脈瘤又は食道の手術に用いた場合」は、手術による重篤な麻痺を予防するための重要な加算であるが、出来高となってしまうと包括評価より診療報酬額が大幅に下がる結果となってしまう施設が存在する。

まず社保委員の所属施設において算定点数の増減を算出する。

以上のような要望や対応を取っていききたいとの説明がなされた。

については各理事や社会保険等システム検討委員会委員の施設の算定がどのようになるかについて

も、情報を大鳥理事に寄せることになった。

### 3. 学術集会プログラム等検討委員会より：第49回学術集会について

第49回学術集会の準備状況について、事務局長を務めている大和雄オブザーバーが報告した。

- ・会場を名古屋から神戸へ、日程を4月から9月に変更したが、変更後もプログラムの演者については9割が問題なく発表可能との回答であった。
- ・協賛企業からの協賛辞退については、いまのところない。
- ・4月の学会場等のキャンセル料は、合計で670万円程度となる見込み。
- ・会場からソーシャルディスタンスの要望がある可能性が出てきた。福岡国際会議場の例では、1会場がどのようなキャパシティであっても100名以上は入場させないなどの対策を要望されているとのこと。

松山理事長が、神戸の会場からも「ソーシャルディスタンスの要望」があった場合、現地開催をあきらめweb開催にシフトせざるをえない、その判断は6月の理事会にて検討後、6月末に行いたいと提案し、一同承知した。

web開催になった場合は、日整会で行ったのと同様に京葉コンピュータ(KCS)のサービスを利用して行う予定であり、9/1~30まで実施する予定である。

- ・教育講演などもオンデマンドで行い、単位付与も可能
- ・共催セミナーはライブで行う

以上のような予定が述べられた。

しかし多くの学会がwebに移行する可能性が高く、その場合KCSのポテンシャルが問題になるため、松山理事長がそれらも含め6月末までには結論を出すこととなった。

提示されたキャンセル料の資料に、学会本体の行事である理事会・評議員会などの会議室料も加算されているようだったので、それについては本体への請求としてもらうこととなった。

### 4. 学術集会プログラム等検討委員会より：第50回学術集会について

根尾理事が、第50回学術集会のプログラム予定について説明した。テーマを「レジェンドを知る レジェンドを創る」とし、日本脊椎脊髄病学会の歴史と未来、この分野における日本人のオリジナリティに焦点をあてて、学会の名誉会員の協力のもと特別講演、シンポジウム、教育研修講演等を企画している。英語セッションを行うかについては、コロナ禍の影響もあり海外演者のキャンセルが続くかもしれないことや、テーマを日本に絞ったことから、今少し様子を見てから判断したいと考えている。この件に関しては学術集会プログラム等検討委員会にて検討してもらうことになった。

## 5 その他

### ・E 理事会報告

一同、前回理事会以降のEメール理事会での決議結果を査収した。

### ・COI委員会より：COI書類の提出について

川原理事が、新役員・各委員長・COI書類の提出を義務付けられている委員会委員に、用意が整い次第、COI委員会より書類提出の依頼をすると発言し、一同承知した。

・JSR 編集委員会より：JSR のバナー広告について

長谷川理事が、現在 JSR のホームページ上 4 社バナー広告を掲載しているが、年間契約となっていることを説明した。バナー広告の月割りを希望する企業があったため、手数料などを考慮し月額いくらにすべきか、近日メール理事会での決議を行うこととなった。

・今後の委員会開催について

渡辺理事が、今年度についてはコロナ禍があり対面しての委員会開催が難しいため、各委員会を開催は、web 会議システムの利用を推奨したいと提案し、一同検討して、承認した。

そのホスト権限については、各委員長に取得してもらい、その費用については、委員長が立て替え、その後事務局に請求をすることとなった。

・教育研修委員会より：今年度の教育研修コースについて

西良理事が、今年度の第 49 回学術集会にて開催予定であった教育研修コースについては、委員会内および学術集会側とも検討し中止を決定したことを報告した。

事前に参加費を徴収しているため、その返金業務を運営事務局あるコングレが行うことになったと説明した。

以上

令和 2 年 5 月 21 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭